

新聞広告の色彩の研究（日本と韓国の比較）

A Study on the Advertising Color in Newspapers (The Comparison between Japan and Korea)

裴 湖珠 Hojoo Bae

1、研究の目的

民族にはその民族伝来の固有の伝統色があり、それはそれぞれの文化的風土と環境によって成立した特性を持っている。それによる影響は今日でもあると思われる。その点が本研究の出発点である。私たちは、毎日、新しい商品が洪水のように出回る社会の中で暮らしている。テレビ、雑誌には、新商品の広告が溢れているが、その中には商品の質と特性とは関係なく、ただ、イメージだけを表わしている場合もある。しかし、たいいてい商品広告は、頭にすぐ思い浮かべられるようなコピーや色彩で構成されている。私たちが、よく知っている広告の中には、まったくの固定観念から出てくる色で誇張されている場合も多く見られる。ここで、広告の使用色は歴史や文化と結びつく。そこに歴史関係から文化的に近い関係にある日本と韓国との間で広告の中での色彩がどのような違いをもっているかを解明する意味があると思われる。両国の生活の中に表れる考え方や好みの異同をとらえることを目的として、その比較のために広告に表れた色の調査し、分析する。

2、研究の方法

両国の新聞カラー広告の期間を限定して収集し、下記3のように18種類に分類した。分類の根拠としては、下記のように公共機関広告と企業広告という大分類をし、さらに業種別に小分類し、それに基づいて両国の新聞を分析し、広告に表された色の共通点と差異点を調べる。

3、分類の内容

- | | |
|----------|------------|
| ①不動産(住宅) | ②出版 |
| ③百貨店 | ④航空会社、旅行広告 |
| ⑤映画、テレビ | ⑥飲み物、酒料 |
| ⑦食料品 | ⑧金融会社、保険会社 |

- | | |
|-------|---------------|
| ⑨自動車 | ⑩家電製品 |
| ⑪通信販売 | ⑫コンーピュータ、移動通信 |
| ⑬家具 | ⑭化粧品 |
| ⑮医薬品 | ⑯衣類品 |
| ⑰公共広告 | ⑱企業広告 |

調査対象とする新聞の種類は日本の代表紙3紙(朝日新聞、読売新聞、毎日新聞)、韓国の代表紙4紙(韓国新聞、朝鮮日報、東亜日報、大韓毎日新聞(旧ソウル新聞)とした。なお、同じ新聞掲載の同一広告でも違う日によって印刷の色が違うことがありうる点を考慮し、両国の新聞は同じ版を収集するようにつとめた。

日韓の新聞の収集期間は、1998年10月から1999年4月までとした。

4、測色方法

新聞の広告印刷色には裏抜けがあるため、視感判定による測色を行った。その諸条件は下記のようなものである。

- 照明の明度:D65
- 測色面の照度:500ルクス。
- 視感測色の時間:一日3時間から4時間。なお、2時間測色した後30分休息。
- 使用した標準色票:JIS Z 8721-1964 準拠 標準色票(無光沢)
- 標準色票と比較する条件:JIS 視感観測条件にしたがう。
- マスクの使用:黒色マスクを標準色票と、試料(新聞)にそれぞれに当てて視感観測を行った。
- 孔のサイズ:14×12mm。

なお、多色使用の広告では文字の色は対象から除き、はじめに目にとまった色を対象とした。つまり、1広告につき1色を選び測色した。

5、測色結果

5-1、新聞広告色の測色した色の数

日本の新聞の合計:1085

韓国の新聞の合計:1225

1色につき3回測定してその平均を測定色とした。

5-2、18種類による三属性による比較

図2、日韓彩度比較

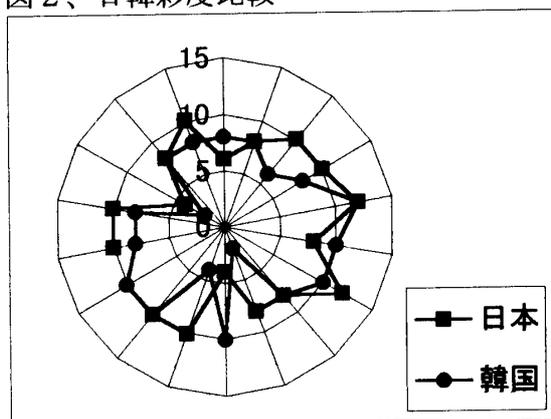


図1、日韓明度比較

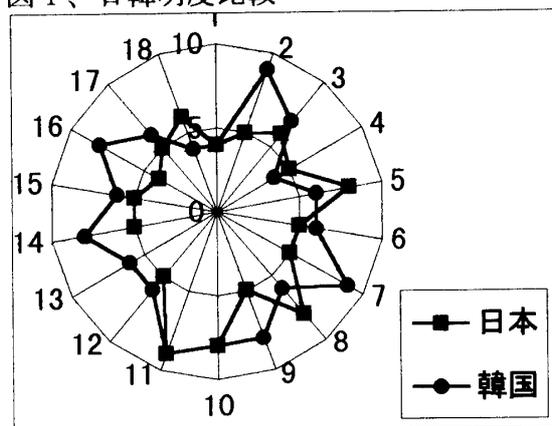


表1色相

| 分類 | 色相 | | 分類 | 色相 | |
|----|-------|-------|----|-------|-----------|
| | 日本 | 韓国 | | 日本 | 韓国 |
| 1 | 7.5PB | 7.5PB | 10 | 10YR | 2.5Y |
| 2 | 10Y | 7.5R | 11 | 7.5PB | 5Y |
| 3 | 7.5R | 5B | 12 | 5R | 7.5PB |
| 4 | 5PB | 7.5PB | 13 | | 10R |
| 5 | 10B | 10R | 14 | 7.5R | 5G, 2.5YR |
| 6 | 7.5R | 2.5G | 15 | 5R | 7.5Y |
| 7 | 2.5Y | 7.5R | 16 | 7.5PB | 2.5Y |
| 8 | 7.5PB | 7.5PB | 17 | 5PB | 7.5PB |
| 9 | 7.5R | 7.5PB | 18 | 5PB | 7.5PB |

6、結果

6-1、明度の比較

韓国の新聞の場合

明度6が18グループの中で7グループに集中されている。明度8、9は、3グループに現れているので全般的に明度は高い。

日本の新聞の場合

明度5が9グループに集中されているので、明度的には中間に位置している。

6-2、彩度の比較

韓国の新聞の場合

彩度10が5グループと彩度8が8グループに見られた。

日本の朝日新聞の場合

彩度10が7グループに、彩度8が4グループに現れていて、韓国の新聞と似た傾向が認められる。

6-3、色相の比較

韓国の新聞の場合

7.5PBが7グループに見られた。日本よりもまとまる傾向が見えた。

日本の朝日新聞の場合

全般的に多様性を見せている。

7、まとめ

日韓の新聞カラー広告に現れた色を調査した結果、日韓の両国の使用する色相はB、5PB、7.5PB系が多く見られる。また、一般的な嗜好色による韓国と日本の若者は明るくて鮮やかな色を嗜好して、暗くて濁った色を嫌悪するトーン嗜好の類似性があったが、その結果と同じように新聞広告の色でも明るくて鮮やかな色を使用し、表現していることが認められた。

参考文献

1 新聞広告デザイン、バク シュクヒ、造形社、1994

広告の科学、チャールズヤン、中公新書、1973
色彩通論、オストワルド、成武堂、昭和17年
The Power of color, Morton walker, 1996